

赤ちゃんと絵本

赤ちゃんは、生後2、3か月頃から、楽しいことがあると笑い声をたてます。また一番身近な人の顔がわかり始め、お母さんの顔をみるとうれしそうにします。

この時期に大人が十分に赤ちゃんに向き合うことにより、赤ちゃんの心の中に安心感、幸福感が育まれ、大人との信頼関係を築いていくといわれています。赤ちゃんの成育過程でとても大事なこの時期、ゆったりとした気持ちで絵本を読んであげてください。

幼児の頃から本に親しむことは、子供の成長にとって大いなる栄養素になるともいわれています。お母さんやお父さんに抱っこされて絵本を読んでもらう赤ちゃんは、きっと自分に対する愛情を肌で感じ取ってくれるでしょう。読み聞かせは、一番簡単な子供とのふれあいの手段かもしれません。

ここに紹介する絵本は、数多く出版されている絵本のほんのわずかにすぎません。ほかにも皆さんとの出会いを待つ多くの絵本があります。赤ちゃんと散歩に出かけられるようになったら、お近くの図書館に寄ってみてください。そして、たくさんの絵本の中から、お気に入りの絵本を見つけてください。

この小冊子が、絵本をとおして赤ちゃんとお楽しみ時間を過ごされるときのお役に立てば幸いです。

神戸市立図書館子供サービス委員会